

会 議 録

会議の名称	平成15年度 第11回西東京市環境審議会
開催日時	平成15年12月5日(金) 19時00分から23時00分まで
開催場所	西東京市役所保谷庁舎 防災センター6階 講座室2
出席者	<p>【委員】金井委員、櫻井委員、清水委員、網野委員、宇都宮委員、松永委員、松永委員、和田委員、片山委員、鈴木委員、村松委員、金成委員、中村委員、佐藤委員、松本委員 矢内会長、西川副会長、菊池副会長</p> <p>【事務局】大森環境防災部長、山本環境保全課長、青柳環境保全課長補佐、横山環境計画係主事、プレック研究所 辻坂、山内</p>
議 題	<p>1. 前回会議録の確認</p> <p>2. 環境基本計画答申について</p> <p>3. その他</p>
会議資料の名称	西東京市環境基本計画(答申)
記録方法	発言者の発言内容ごとの要点記録
会 議 内 容	
<p>(19時00分開会)</p> <p>矢内会長 時間になりましたので、始めさせていただきます。 前回の議事録について、ご意見ありましたでしょうか。</p> <p>清水委員 前回審議会の最後で、環境省の環境活動評価プログラムを紹介した旨、議事録に残しておいてほしい。「エコアクション21」は中小企業向けのISO簡易版である旨、審査費用が20～30万程度である点を、記述しておいてほしい。</p> <p>片山委員 私の名前になっている点はすべて鈴木委員の発言であるため、訂正してほしい。</p> <p>中村委員 緑被率30%について、こだわりをもって発言したので、その点を詳しく書き込んでおいてほしい。30%算出根拠に疑問があるという点を書いてほしい。</p> <p>矢内会長 5頁の「緑被率の正確な値は出ていないので…」のところ、30%はかなり年度が古いデータであり、推計値であるという点を追加する。</p>	

網野委員

交通マスタープランについて、「交通体系のあり方」に変更する場合であっても、その言葉を「 」でくくって強く打ち出したいということが発言の趣旨であり、「交通マスタープラン」でなくてもよいということです。

矢内会長

他にございましたら、後ほどでも結構ですのでお願いします。

本日は、答申をまとめるということで、議論を出来るだけ収斂させる方向で進めたいと思います。

前回から大きく変わった点について、事務局から報告いただけますでしょうか。

青柳環境保全課長補佐

全体的なところについて、ご説明させていただきます。

これまでは重点について中心に検討してきましたが、全体の流れという中で、細かな文章の言い回しなどを見直したり、字体を丸いタイプに変更したりという点は見直しています。

庁内で各課へのヒアリング調査を実施しましたが、市の取り組みなどについては計画の答申ということを考え、委員・市民の意見を尊重する形から、それを受けた変更はしていません。

重点プロジェクト、計画の推進については、前回の審議および正副会長の意見を入れて修正しています。

巻末には、資料として諮問文や検討経緯をまとめさせていただきました。

矢内会長

正副会長の打ち合わせでは、数値目標の数値を入れるかどうかということが議論になりましたが、今回の答申案資料では、数値そのものを入れていません。データそのものがないものや、数値目標にそぐわないような基本方針もあることなども踏まえての事です。本日は、この点についても審議会の総意を得たいと考えています。

事前に委員からいただいたご意見もございましたが、個別的なご指摘であったため、今後の正副会長での調整で検討させていただきたいと思います。

では、数値目標についてまず、検討したいと思います。

櫻井委員

数値目標を示す必要はあるのですが、「何らかの活動を行って達成した」というようなものが目標としてほしい。例えば農地を市がどれだけ公有地化して担保したか、環境学習を何回やったかなどがあげられると思います。

中村委員

みどりに関しては、数値目標を立てるのは難しいとは思いますが、現状維持といった目標でもよいので、何らかのものを打ち出すことが重要だろう。公園であれば、市が管理しているところが何箇所とか、数値そのものはあげられないとしても、目標とする項目くらいは示しておくべきだと思います。

網野委員

答申では目標値を決められないにしても、「市で検討して計画までに定めてほしい」というか、「計画策定後でも定めるべき」というか、答申の中でいろいろ書き方が考えられますが。

矢内委員

出来るだけ計画の中では数値を出してほしいと考える。計画の推進において、数値目標が活用できるようにしておきたい。

中村委員

各方針の「数値目標」という項目名を「目標」に変更して、もっと詳しい内容を書き込んでおく方が良いのではないのでしょうか。

矢内会長

例えば公園についてなら、「市の管理する公園を増やす」といった表現くらいまでは入れておけば良いのですが。

櫻井委員

タイトルを「目標」とするのでよいでしょう。例えば38頁であれば、「大気汚染に関連する指標について目標設定すべきです」といったような表現で、強く打ち出したい。

矢内会長

必ずしも数値を出さなくても、ご意見をいただいたような表現で答申とすることでもよいのでしょうか。

清水委員

答申を受けて、市長が目標値を設定するということになります。

金成委員

基本方針3では、「ごみ半減」という言葉が出されているが、施策の展開の中ではこの言葉が出てこない。是非入れてほしい。ごみ半減が、資源化率50%なのか、排出総量の半減なのかもはっきりと結論できていないので、目標値を答申で出すのは難しいかもしれないが、文章中でもよいので、ごみ半減を入れてほしい。

青柳環境保全課長補佐

68頁の「施策の展開」の中では「ごみ半減」が入っています。

櫻井委員

数値目標については特に「施策の体系」の中で入れるのではなく、63頁の「目標」の項目の中でうたうべきではないか。

清水委員

他の基本方針との整合を考えると、「目標」では「ごみの総排出量やリサイクル率など

を目標として設定する」くらいの表現になるのではないか。他の部分も目標値が出せるのであればよいのですが、ごみについてだけ目標数値を出すのはバランス的にどうでしょうか。

矢内会長

「施策の展開」の中でごみの半減は出ていますが、こういったところで金成委員の意図が伝わるかというところが問題でしょう。

櫻井委員

目標に対して、施策の展開、重点プロジェクトで進めていくという流れと考えられるのですが。

清水委員

基本方針3の目標値については、ごみだけでなくエネルギーについても入れる必要がある。新エネルギー導入施設数とか、ISO取得企業数なども考えられる。

網野委員

審議会で数値目標をきっちりと決めることは難しいと思う。答申では、こういう方向で目標を出していくということを示しておく形でよいのではないか。ここで目標値を出してしまうと、推進協議会の他いろんなところに関わってくるので、「今後、数値目標を定めていく」というくらいで答申はよいのではないか。また、「施策の展開」の中で目標の設定がされているので、63頁のような「数値目標」という記述は重複してくるような印象を受ける。

矢内会長

数値目標が、現状と課題の記述の流れの中で出てくるところにも違和感があるようです。施策の方に入れるべきではないでしょうか。

櫻井委員

具体的な数値を出せない以上、その趣旨を「施策の展開」で出せていけばよいのではないか。

金成委員

ごみ資源化率を50%にするというニュアンスは施策の展開には入っていない。その点も入れておいてほしい。

片山委員

再資源化率を半分にしようということであれば、重点プロジェクトでも「ごみ半減」は同様の趣旨になると考えられるのでしょうか。

矢内会長

ごみ排出量の半減を目指しつつ、リサイクル率も上げていこうというのが趣旨と受け取っていましたが。

金成委員

重点プロジェクトについても、そのような趣旨で書いてあると考えています。ただ、排出量を半減するのはすごく大変だと思いますし、資源化率50%であれば、やり方によっては出来るのではないかと思います。

矢内会長

「ごみ半減」はスローガンのような扱いになるでしょう。再資源化率50%は、目標値として設定できるだろうということなので、そのあたりは同じ「ごみ半減」でもしっかりと書き分けたい。

櫻井委員

資源化率の分母は何になるのか教えていただきたい。

金成委員

プラスチック類のリサイクルがきちんと出来れば、20%くらいリサイクル率向上が可能かと考えています。

家庭では、プラスチックや生ごみ、紙類をきちんと分別することが前提となります。狭山市の生ごみ堆肥化施設では、生ごみが腐らないようなバケツをつかって生ごみ回収を進めているとのことでした。

清水委員

これまでは、ごみ排出量を半減した上で、リサイクル率も向上するというような考え方でいたのですが、どうでしょうか。

金成委員

燃やすごみ、最終処分場に運ばれるごみを減らすことが大切と考えている。資源化できるものは「ごみ」ではなく「資源」と捉えている。

宇都宮委員

二ツ塚処分場への搬入量が、配分量を超えている点が市の抱える問題と考えられます。それに対応するやり方として、資源化を進める、生ごみを資源化するといったことが重要といえます。従って、「最終処分場への搬入量を減らす」ということを前提に掲げたほうが良いように感じました。

金成委員

そういう点もありますので、資源化率の向上を答申では打ち出したい。

西川副会長

家庭から出すごみの量を半減するという風に市民からは受け取られると思いますが、答申では搬入量、資源化率など、何を半減するのかが混乱しているように受け取れます。「搬入量を半減する」ということをはっきりと示しておくべきではないでしょうか。

櫻井委員

資源化も大切ですが、そのためにはエネルギーも必要であるし、やがては再びごみとなります。ものを大切に使うということが前提ではないか。生ごみは堆肥化すれば土に戻りますが、プラスチック類などは使う量自体を減らすことが重要と考えます。

矢内会長

「ごみ半減」については、「搬入量の半減」と明確にした方がよいでしょう。再資源化にかかる部分については、その旨を明記しておくようにしたい。

金井委員

地球温暖化については国際的なデータも取られていますが、この計画の中でどの程度西東京市が貢献するかということを示しておけないでしょうか。数値目標までは出せないにしても、「京都議定書を受けて、西東京市としてこの程度貢献する」とかいった書き方をすることで対応できるのではないか。

櫻井委員

答申では「西東京市としての責任を果たし…」と書かれている。問題は「西東京市としての責任」とは何かということになるのでしょうか。

宇都宮委員

省エネルギービジョンなどで目標を定めている自治体もある。日本全体では6%だが、自治体ごとの差もあるので、一概に6%を目指せばよいということにはならない。市でガソリンをどれだけ使っているかというようなデータも取れない現状では、「市としての責任を果たす」くらいの書き方でよいのではないか。

金井委員

答申の表現でよいと思う。計画の中で地球温暖化をなぜ取り上げたか、取り組みでどういった効果が出せるのか、そういった議論がこれまで少なかったと感じています。

松本委員

ごみや道路に比べると、自動車については取り上げ方が弱いと感じます。

矢内会長

こういった議論は全体に関わってくるのが本来ですが、あえて4つの基本方針にわけて検討をしてきたので、そのようなご意見もやむを得ないところはあると思います。

金成委員

62頁下から2行目「ごみ有料化の検討」を修正したい。また、70頁市民の取り組みで「中古品」について、中古品とは何を指しているのでしょうか。70頁市の取り組みで「ごみ削減」についてだけでなく、発生抑制についても働きかけてほしい。72頁で、堆肥化を進めるのは、燃やすことによる環境負荷を減らすという趣旨を示してほしい。74頁の環境学習の4つ目、「生涯学習に関しては」の表現は削除した方がよいのではないか。77頁では、「推進協議会」も出してほしい。77頁施策の展開では「教育場面」を「場」としてはどうか。の「公正中立」は削除した方がよいのではないか。81頁市の取り組みで「熱意

のある市民」ではなく、学習プログラムを終えた人がリーダーとなるということではないか。市民の取り組みで「興味のある人は」というのも同様。

青柳環境保全課長補佐

「ごみ削減」は「発生抑制」と置き換えたい。

矢内会長

推進協議会は後段で出てくるのですが、ここで書いてもよいでしょうか。

網野委員

「形成過程においては従来行われていた説明会などに加え、新しい仕組みも取り入れていきます」といった書き方でどうか。

西川副会長

「公正中立」は、第3者的という意味をうちだす意味もあるように感じます。

櫻井委員

環境リーダーは、資格的なものなのかどうかによって書き方が変わってきます。

清水委員

環境リーダーの育成もよいが、今活動している人を登録して活動を後押しするという
ことも重要ではないでしょうか。

櫻井委員

89頁重点4の序文では、ヒートアイランドも元のように書いておいた方がよいように
感じます。エネルギー使用を減らすだけでなく、それにより何を指すのかを示す意味
で重要と考えます。

清水委員

ここにヒートアイランドが書かれていると、全体のバランスからみてどうかとは思
います。前段でもかなり書かれていますが。

櫻井委員

それであれば、地球温暖化についても記述する必要がなくなります。市民アンケート
で、市民の関心の高い分野として、地球温暖化についてヒートアイランドがあげられて
いる。これをみても、ヒートアイランドを前面に取り上げることが重要ではないかと考
えます。

矢内会長

ヒートアイランドについては、元のような記述に戻したいと思います。

松本委員

18頁農地に関して「相続税…」の事実確認をお願いしたい。残すにしても、括弧をとる

などして、相続税だけを強調するような書き方は見直したい。また54頁「事業者の取り組み」内の表現は、農家の生き方まで示しているように感じるのでしょうかと思います。

中村委員

18頁の括弧内は削除するのでよいのではないか。

金成委員

身近なところで緑地がなくなっているケースでは、ほとんどの場合は相続が原因のようです。

金井委員

農家は生業として農業を行っているので、市に指図されるわけではないし、市民農園などは業とはあまり関係ないので、農家の中には、基本方針2のような書き方が引かかる方もいるかもしれません。

鈴木委員

相続については現実問題でもあるので、記述しておけばよいのではないのでしょうか。

網野委員

「主として」を削除すれば問題ないのではないのでしょうか。

矢内会長

市民の取組についても、ライフスタイルにかなり踏み込んでいるところもありますが、農家に対してはどうでしょうか。

西川副会長

「生産緑地指定を申請します」とまで書くのはどうか。これは削除しても良いのではないか。

金井委員

体験型農園については利用者と農家の間で自主的に行うように記述しているが、会員制のような形になってしまうので、問題も出てくるのではないのでしょうか。

櫻井委員

「取り組み」で書いてある事項に強制力があるわけではない。方向性、提案を示すといった位置付けだと思いますが。

鈴木委員

事業者の取り組みの1つめは削除でよいのではないのでしょうか。

金井委員

緑を残したいのは当たり前だが、農家の取り組みに対して踏み込みすぎるのがどうでしょうか。個人の土地に対して、「緑を残せ」というのはいかなるものなのでしょうか。

櫻井委員

実際問題として、現状ではお願いすることくらいしか手がないので、このような書き方もやむをえないでしょう。

網野委員

農家の取り組みについてはやや踏み込みすぎの印象は受けます。気になるところは削除してみてもどうでしょうか。やわらかい表現に置き換えるのも手ですが。

松永委員

確かにきつい表現もあります。各主体の取り組みの方向性を示している部分であるので、表現等は工夫した上で、会長に調整していただくのでどうでしょうか。

青柳環境保全課長補佐

他の部分でもきつい書きぶりのところが多いが、「努めます」とかいった表現も使って、見直していきたい。

矢内会長

97頁と99頁の図は、一つにまとめたい。

99頁上のほうで、庁内推進委員会でいきなり「環境保全課」が出てくるので、課の位置付けを示しておきたい。

85頁重点7で「残そう」か「増やそう」か、確認しておきたい。

金井委員

「身近で育てたものをたべよう」くらいがよいのかもしれませんが。

中村委員

「増やそう」の方が前向きな感じが出てよいのではないのでしょうか。

矢内会長

重点1で「交通マスタープラン」は、「道路交通のあり方」としたい。

清水委員

91頁重点6で「西東京市版ISO」は、具体的に考えておられるのでしょうか。これはよいのだが、相当な準備が必要となる。既存の仕組みも環境省などであるので、「エコアクション21の推進」をはっきりと打ち出したい。

山本環境保全課長

タイトルは「(仮称)西東京市版ISO」でよいのでしょうか。

矢内会長

取り組みの中でも、環境活動評価プログラムを西東京市版ISOの前に持ってきてはどうでしょうか。

清水委員

タイトルはこれまでの検討経緯もあるので、このままでよいのではないか。

西川副会長

タイトルは「... I S Oなどにより」としてはどうか。

中村委員

環境シンポジウムは9月の開催ですので、訂正してください。委員名簿も再確認をお願いします。

網野委員

100頁の図で、市民の関わりがP D C Aすべてに関わるという風にしたいのですが。

矢内会長

図は、「市の行う進行管理のしくみ」となっていますが、いかがでしょうか。

金井委員

すべてに市民の関与を出してほしい。最初から示された体制だけで進めるのではない、市民もみんな参加できるというのが、全体的に感じられればよいのですが。

青柳環境保全課長補佐

99頁で、全ての主体が実行に関わることは示しています。100頁はP D C Aのうち、点検評価の仕組みを取り出して示したものとなっています。

網野委員

進行と管理の体制は99頁の図、その仕組みは100頁の図といえる。仕組みについても市民が全般に関わるということを示したいのですが。

矢内会長

図で、タイトルの「市の行う」と、四角の市民事業者をとる事としたい。

櫻井委員

99頁で、庁内推進委員会は、計画推進のための委員会ですが、他の計画の場合、これに対応する委員会はあるのでしょうか。例えば社会教育計画であれば、環境保全課がメンバーとして入っているのでしょうか。

山本環境保全課長

計画によっては委員会が出来るものもあります。教育に関しても、メンバーとして入っています。

清水委員

P D C AのAは、J I Sでは「A c t」になっているので、そちらにあわせるべきです。

矢内会長

他の計画との整合も見ながら検討したい。

片山委員

60頁地球温暖化の5行目、「動植物の」は削除した方がよい。46頁で「景観をそこねる」はとった方がよい。20頁の図で、特に地球規模の環境問題については重複しているキーワードが多いので、見直した方がよいでしょう。

菊池副会長

重点2で「雑草パーク」について、削除してもよいのではないのでしょうか。

中村委員

合併記念公園で、雑草を集めた植物園的なものを作ろうという趣旨で解釈していましたが…。野草園というような言い方もありますので、残してはどうか。

清水委員

重点4で「自然エネルギー」という言葉が使われているが、4章では「新エネルギー」としている。自然エネルギーというのであれば、新たな定義を示す必要がある。

櫻井委員

重点ということで、「自然エネルギー」を強く打ち出している。65頁を受けて、その中で自然エネルギーを強く出していくということです。

村松委員

「数値目標」の件について、再度、確認したいのですが。

矢内委員

網野委員の意見のように、施策の展開の前文の部分で、目標を入れ込んでいく。あるいは中村委員の意見のように、目標が見えるように整理するという事で考えたい。いずれにしても、具体的な数値はここでは示さないでおくことになる。

櫻井委員

施策の展開に入れるということであれば、よりきめ細かな目標設定を示すことになる。

西川副会長

すべてに目標を入れるのではなく、内容によって入れないのも出てくるのではないのでしょうか。

櫻井委員

数値は出せなくても、方向くらいは示せるのではないか。

矢内会長

「可能な限り数値目標を設定する」といった表現でまとめる方法もあるが、やはりそれぞれ項目ごとに出すこととしたい。

「数値目標」を「目標」として、設定する項目についてももう少し具体的に書き込むのがひとつ。

中村委員

そのように、はっきりと「目標」を掲げた方がよいでしょう。

清水委員

その際でも、記述内容は、漏れがないようにしておいてほしい。

網野委員

31頁には数値目標の説明が書いてないが、現状を受けて目標設定を、数値に限らずに行うこと、それを施策につなげていくことが重要です。この頁に、数値目標の必要性を明記しておくのがよいのではないのでしょうか。

矢内会長

目標の必要性を、31頁にまとめて書くか、施策の展開の頭にそれぞれ書くかということが考えられる。

櫻井委員

数値の設定については、実施計画にゆだねるということも考えられる。

村松委員

第6章の計画の推進の中で、目標設定を示すのもよいのではないか。

矢内会長

答申案の体裁でさらに書き込むやり方、進行管理で書くやり方くらいで考えたいのですがいかがでしょうか。

清水委員

網野委員の案でよいのではないか。進行管理で書く場合であっても、4章の中のどこかには入れておきたい。

金成委員

答申案の書き方でよいのではないか。

網野委員

その書き方であれば、目標値を立てないと体裁が不自然であるので、このレベルであれば、31頁で書くのでよいのではないか。

西川副会長

すべてに目標値を出すのは困難なので、例示するということがよいのではないか。答

申案の形を練り上げるのでどうか。進行管理にも重ねて示しておくのがよいのではないか。

櫻井委員

目標を拾い上げていくのは時間的にも無理なので、後ほど意見提出してもらってはどうか。

矢内会長

進行管理の中に示するのが最も素直な書き方だとは思いますが....。

佐藤委員

基本方針は大目標あるいは中目標にあたるので、具体的な取り組みのところで数値目標をあげていくことになるのではないのでしょうか。「施策の展開」(1)(2)(3)のタイトルがつまり目標になるべきものではないか。それぞれに目標となるものがあるのではないか。

網野委員

「施策展開と各主体の取り組み」のフロー図の下に「目標」を移動させるくらいの修正でよいのではないか。

(休憩)

矢内会長

それぞれの委員の思いが反映された答申案となっています。落ちがあるという部分もあるかもしれませんが、ある程度はやむをえないと受け取っていただき、重要な部分が強く出されていることがポイントだと考えたい。

目標については、31頁はこのまま活かしておきたい。そして38頁は、「施策の展開」のフロー図の前に「目標」を移動したい。ただし書きとして、「緑被率」「ごみ」については、これまでの議論から数値目標がイメージできるので具体的に言及しておきたい。

金井委員

来年度から事業化を進めていくものについては、出来れば数字を出してほしい。

櫻井委員

数値に関係ない目標はあげないということでよいのでしょうか。

清水委員

基本的に合意する。

ただし、重点プロジェクトについて対応する目標がほしい。審議会で議論にならなかった事項についても、重要でないというわけではないので、そうした事項についても目標を設定しなくてよいというわけではない点に気をつけておきたい。

矢内委員

では、そのように対応した上で、また進行管理のところでも目標について言及することとしたい。

以上を踏まえて、答申をまとめさせていただくことでよろしいでしょうか。

次回は1月23日ということよろしいでしょうか。また改めてご案内させていただきます。

青柳環境保全課長補佐

最終的には正副会長に確認いただいた上で、今月の22日か24日くらいをめどに答申を市長に提出したい。同時に委員の皆様にも送付したい。

市の計画は来年3月にまとめる予定です。

矢内会長

それでは遅くなりましたが、閉会させていただきます。ありがとうございました。

(23時00分閉会)

以上